

ゴミゼロボランティアへの
ご協力をよろしくお願いします！

三原やっさ祭り実行委員会 内
ゴミへらし隊エコレンジャー委員会

2004年にゴミへらし隊エコレンジャー委員会が発足！それまでの祭り会場はゴミが散乱して本当にひどい状況でした(当時の写真なし)。エコレンジャーが活動を始めてからも、このような状態が多くありました。



三原やっさ祭りゴミへらし隊エコレンジャー

エコレンジャー委員会の 活動目的

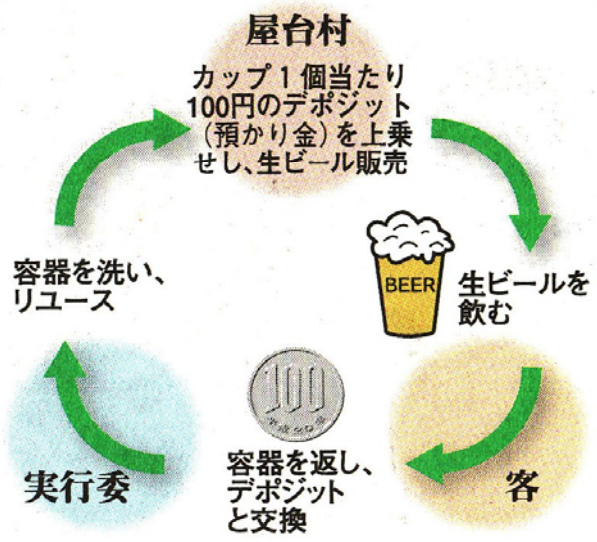
- 三原やっさ祭りのごみ削減を通じて、地球温暖化、廃棄物問題、資源エネルギー問題に取り組めます。
- 「きれいな祭り」にすることを通じて、三原やっさ祭りでの「おもてなし」に貢献します。

エコレンジャー委員会の取り組み①

【リユース】 そもそも、ゴミになるものを、できるだけ使わないようにする

温暖化防止へ リユース容器

三原やっさ祭りの容器リユース(再使用)



三原やっさ祭り実行委員会は今夏初めて、祭り会場で売る生ビールの容器に、リユース(再使用)カップを導入する。地球温暖化対策として、脱「使い捨て」意識を訴え、ごみ減量に取り組む。

実行委は、生ビールを扱う屋台村の店にカップを貸し出す。使用後は、会場内の数カ所

三原やっさ祭り

で回収し、洗浄して再び貸す。一杯当たり百円を上乗せして売り、回収時に返金するデポジット(預かり金)制度も併用し、百パーセント回収を目指す。

昨年夏は、かき氷や飲み物を売る屋台村から、三日間で計四八七キのプラスチックごみを回収。カップ換算で、約一万個分にあつ

生ビール用 100円上乗せ 回収時返金

た。任意で祭り客に貸し出すリユースカップは、計二百四十三個の利用にとどまった。

昨年の実績を踏まえ、実行委の「ゴミへらし隊エコレンジャー委員会」が、リユース容器の義務付けを提案。生ビール用カップを約三千五百個借りる算段がつき、導入を決めた。

「エコレンジャー」委員長の泉環境保全アドバイザー安藤志保さん(38)Ⅱ中之町南Ⅱは「祭りの全体の意思として一歩踏み出せ、うれしい。リサイクルの前に取り組める、リユース意識を根付かせたい」と話している。

(石丸賢)

クリック

リユース 循環型社会形成推進基本法(2001年1月施行)で、廃棄物処理の優先順位を①リデュース(発生抑制)②リユース(再使用)③リサイクル(再利用)Ⅰと定めた。3R政策と呼ぶ。サッカーJ1、J2の競技場などで03年以降、リユース容器の導入が進んでいる。

エコレンジャー委員会の取り組み②

【リサイクル】 出てしまったごみを分別してリサイクルする

第33回三原やっさ祭り・駅前会場で出たゴミ

リサイクル率：51.6%※

	2008年合計	全体に占める割合	2007年量	前年比
ペットボトル	74.5	13.9%	101.7	73.3%
スチール缶	14.8	2.8%	15.4	96.1%
アルミ缶	70.3	13.1%	79.7	88.2%
容器包装プラ	90.1	16.8%	92.9	97.0%
びん	49.1	9.2%	51.1	96.1%
割り箸	10.0	1.9%	8.0	125.0%
燃えるゴミ	220.0	41.0%	277.3	79.3%
燃えないゴミ	7.4	1.4%	12.4	59.7%
合計	536.2		638.5	84.0%

※容器包装プラの1部を洗いきれず「燃えるゴミ」としたため、 のリサイクル品目合計とリサイクル率の差がある 5
三原やっさ祭りゴミへらし隊エコレンジャー

リユース、リサイクルによる CO2削減量

4,233kg

(2009～2015年)

杉の木302本
に相当するCO2を減らしたことになります。

大きく成長した杉の木(50年で、高さが約20～30m)は、
1年間で平均して約14kgのCO2を吸収するとされています。

たくさんの小・中学生、高校生が 参加してくれています！

